

# サービス主導の回復を見せる中国景気

## ポイント① 個人消費の伸びが大幅に加速

16日に4月の中国の主な経済指標が発表されました。鉱工業生産指数は前年同月比5.6%増、小売売上高は同18.4%増と前月から伸びが加速しました。一方、固定資産投資は同4.7%増、不動産開発投資は同6.2%減と前月から悪化し、まちまちの結果となりました。昨年の上海のロックダウン（都市封鎖）の反動や、ゼロコロナ政策解除後の外出増加を受け、外食や衣類などへの消費が大きく回復しました。また、自動車製造を中心に生産活動も改善したものの、経済再開後は外食や旅行といったコト消費への需要が強く、勢いは限られました。

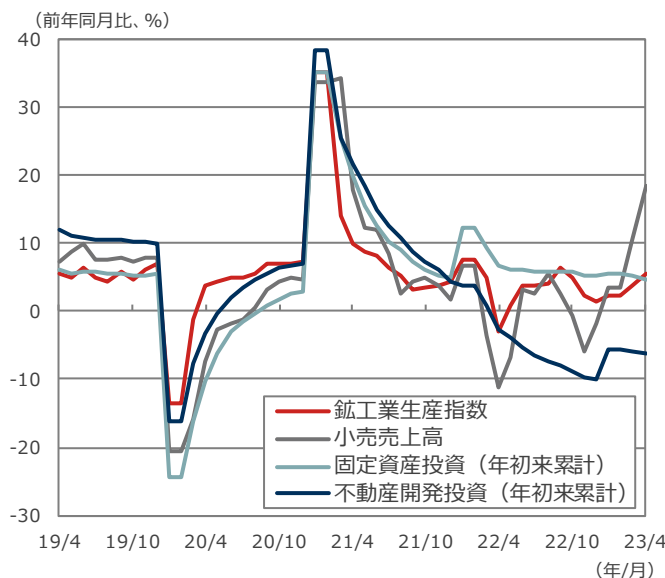
## ポイント② 時間を要する不動産市況の回復

他方、不動産開発投資は、不動産企業の過剰債務の是正を目的とした規制強化の影響で減少が続き、中国では完成前に新築住宅を売り出す予約販売が一般的ですが、規制強化により不動産企業の資金繰りが悪化し、新築マンション工事の中断が相次いだことから住宅購入を見送る消費者が増加しました。中国政府による国有企業への資金繰り支援を背景に不動産市況は底打ちの兆しが見えますが、民間企業の工事再開が遅れており、抜本的な回復には時間を要しそうです。

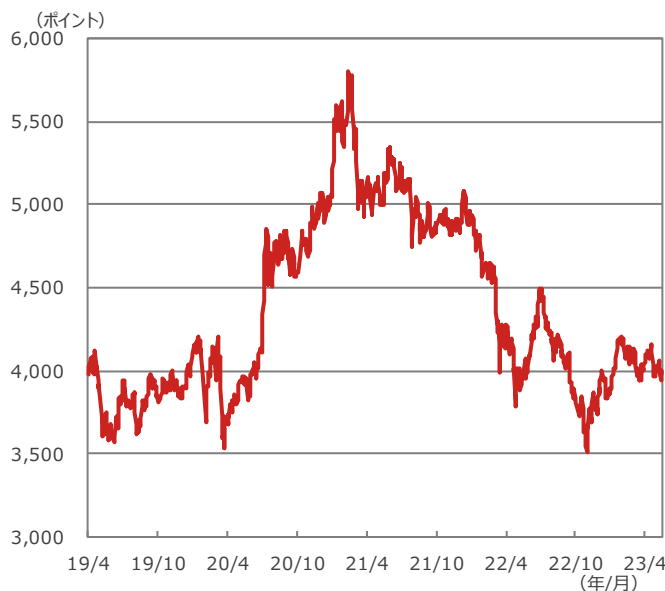
## ポイント③ 今後の中国政府の動向に注目

各経済指標は、市場が予想していたほどの強い内容ではなく、16日の中国株は軟調に推移しました。もっとも、2023年は未だ4ヵ月を過ぎた段階であり、景気回復の勢いが鈍化した場合でも中国政府による景気刺激策が期待されるため、今後の経済情勢や政策動向に注目です。

中国の主な経済指標



上海/深センCSI300株式指数



**重要イベント** 5月31日 中国製造業/非製造業PMI (購買担当者景気指数、5月)